

第1回 新石垣空港環境検討委員会議事録

日 時：平成12年12月23日（土） 10:00～18:30

場 所：沖縄県八重山支庁大会議室

（事務局） 定刻になりましたので、ただいまから「第1回新石垣空港環境検討委員会」を開催いたします。私は事務局を務める新日本気象海洋株式会社の平野です。しばらくの間進行役を務めます。

はじめに事業者から挨拶をさせていただきます。沖縄県 新石垣空港建設対策室 屋比久室長をお願いします。

1. 開会挨拶（新石垣空港建設対策室 屋比久室長）

（沖縄県）委員の皆様、朝早くから大変お疲れさまでした。私は、県新石垣空港建設対策室長を務めています屋比久と申します。委員の皆様にはこの環境検討委員会の委員のご承諾、快くお引き受けいただきましてまことにありがとうございます。また、本日は第一回の現地での環境検討委員会にご案内申し上げましたところ、全員がご参加してくださいましてまことにありがとうございます。

新石垣空港建設問題につきましては、私から申すまでもなく、これまでの新聞報道等で十分ご承知かと思えます。この問題につきましては特に環境保全上の課題、あるいは農政上の課題、他にもいろいろな課題がありますが、特にこの2つの課題等で建設位置が、白保海上案から、カラ岳東案、宮良牧中案ということで位置が2転3転し、特に地元の合意形成、地元が理解できるという場所選定、場所決定ができなくてこれまで20数年も経過してきております。このたび特に地元中心の選定委員会を立ち上げまして、そこで十二分に議論をした結果、選定委員会から知事へ4つの案のうち、特に地元の皆さんが合意形成がはかれる見通しがついたカラ岳陸上案を提言してもらいました。それを踏まえまして、県は知事から正式にカラ岳陸上案でこの空港建設をやっていくということで正式に発表しております。そのあと、特に地元の意見等を踏まえまして、石垣市長が議長を務めました地元調整会議、そこでもより具体的な議論をしていただきまして、特に白保海域のサンゴ礁の環境保全、そういったことも考慮しまして、選定委員会から提言された位置より、約180mぐらい南側にずらした具体的な案を決めていただきました。地元で決めていただきましたこの位置で、県はこれから新しい空港の建設に取り組んでいきたいと考えておるところでございます。

この環境検討委員会の委員をしております小林委員、崎山委員、特に、小林委員からはこれまでの選定委員会の議論の中、あるいは地元調整会議の議論の中で、私たちの出したデータが乏しいと、小林委員本人としてはなかなか判断がつかないという意見等もございました。これからこの環境検討委員会を立ち上げまして、それぞれの分野の先生方、委員が入っていますので、どうか十分な意見、議論等を賜りまして、県への助言・ご指導等をよろしくお願いしたいと思います。

そういった中で、環境影響評価方法書を作りまして、その方法書に基づいたき

め細かい環境現況調査をやりながら、これから準備書、あるいは評価書を作って行くわけですが、時間的には14年、あるいは15年ぐらいまで掛かるうかとは思いますがひとつ最後までよろしくお願ひしたいと思ひます。

それから、最近になってこの決めていただいた場所の周辺の洞窟から貴重種のコウモリ等もみつかつております。そういった保全策等につきましてもひとつ県へのご提言をよろしくお願ひを申しあげまして、非常に簡単ではございますが事業者の挨拶とさせていただきます。ひとつよろしくお願ひします。

2. 委員の紹介

(事務局) つづきまして、事務局の方から「新石垣空港環境検討委員会」の委員の方々をご紹介させていただきます。

琉球大学 名誉教授 香村 真徳 先生

琉球大学理学部 教授 大森 保 先生

琉球大学 農学部 教授 渡嘉敷義浩 先生

琉球大学 農学部 教授 黒田登美雄 先生

琉球大学 熱帯生物圏研究センター 助教授 金城 政勝 先生

琉球大学 教育学部 助教授 立石 庸一 先生

琉球大学 熱帯生物圏研究センター 助教授 酒井 一彦 先生

財団法人日本野鳥の会 八重山支部代表 崎山陽一郎 先生

琉球大学 工学部 助教授 仲座 栄三 先生

財団法人世界自然保護基金日本委員会 サンゴ礁保護研究センター 小林 孝 先生

琉球大学 熱帯生物圏研究センター 助教授 太田 英利 先生

以上の11名の先生方に委員をお願いしております。

続きまして、事業者を紹介します。沖縄県 新石垣空港建設対策室の屋比久室長です。同じく根路銘副参事です。八重山支庁 西崎支庁長です。八重山支庁 新石垣空港建設課 首里参事です。

なお、本委員会に関する事務局は、新日本気象海洋株式会社と株式会社沖縄環境保全研究所の共同企業体でつとめさせていただきます。よろしくお願ひいたします。

3. 委員会資料の確認

(事務局) それでは、本日お配りしておりますお手元の資料を確認させていただきます。

議事次第、配付資料、資料1 新石垣空港環境検討委員会設置要綱、資料2 事業の経緯と計画概要、資料3 環境影響評価法の概要、資料4 環境検討委員会のスケジュール、資料5 現地視察の行程、資料6 参考資料、以上6つの資料をお配りしております。ご確認いただけましたでしょうか。資料が不足していましたらお知らせ下さい。

なお、本日の次第で案内しておりますが、本日の午後は、現地視察、陸域ならびに海域の空港予定地周辺の現地視察を予定しております。大変盛りだくさんの

議題になっておりますのでよろしくお願ひいたします。

4．新石垣空港環境検討委員会設置要綱について

(事務局) 次第にしたがいまして、新石垣空港環境検討委員会設置要綱につきまして説明をさせていただきます。資料1をご覧ください。

1頁から新石垣空港環境検討委員会設置要綱を読ませさせていただきます。

(資料1 新石垣空港環境検討委員会設置要綱 全文音読)

5．委員長及び副委員長の選出

(事務局) 次第に従いまして、委員長及び副委員長を選出させていただきたいと思ひます。設置要綱の第2条第3項により、委員長及び副委員長は委員の互選となっておりますので、よろしくお願ひいたします。

(事務局) 推薦等ございますでしょうか。

(委員) 琉球大学名誉教授であります香村真徳先生を推薦したいと思ひます。

(事務局) 他にございますでしょうか。それではご推薦によりまして委員長に香村先生をお願ひしたいと思ひますがよろしいでしょうか。

(異議なしの声あり)

(事務局) それでは、副委員長ですが、香村先生、どなたかご指名いただければありがたいのですが。

先生、それでは委員長ということでもよろしくお願ひいたします。副委員長もご指名いただければと思ひます。

(委員長) ただいま、委員長に推薦されましたが、そのまえに副委員長を決めたいと思ひます。副委員長には琉球大学理学部の大森先生にお願ひしたいと思ひますがいかがでしょうか。

(異議なしの声あり)

(委員長) 大森先生、ひとつよろしくお願ひします。

6．委員長挨拶

(委員長) それでは、私の方から挨拶をさせていただきます。これまで、新石垣空港の問題については約25年もすぎようとしています。これがいかなることであったかという環境問題がとっても重要であると認識するわけで、そういったことについては世界や日本でいろいろな環境問題が持ち上げてきたかと思ひます。

新石垣空港を設置するにあたり、自然が豊かであることはご存じのとおりでありますし、位置についても合意形成がなかなか得られずに時間が過ぎてきました。

この委員会ができましたのは環境影響評価法に基づいて調査方法とか、あるいはどう予測していくかを方法書としてまとめることが重要な課題となっております。環境に対する影響や保全対策について検討していただきまして委員会を運営していきたいと考えております。この新石垣空港が今回の検討委員会で十分に議論され、将来において、空港が建設されることを石垣の皆さんにとってもひとつの誇れるものになればと思ひています。

委員会の皆様方には、早朝からお集まりいただき、午前中は議題と、午後は約5時間に及ぶということで長丁場になりますので、ひとつよろしく申し上げます。

自己紹介をしていませんでしたので、香村真徳と申します。3年前に琉球大学の理学部を退官し、このかた自然保護問題について、我々の自然環境がどうあるべきかということを経験してNGOとしての活動をしているわけでありませす。また、新石垣空港の問題についてはこれまでも関わってきました。私としては委員長として相応しいかわかりませんが、これからもできるだけ委員会がスムーズに進みますよう皆様をお願いいたしまして、私の挨拶に代えさせていただきます。

7. 報告事項

(委員長) それでは、議事次第に沿って議事を進行していきたいと思ひます。「7. 報告事項」について事務局から報告してもらひます。「事業の経緯と計画概要」について事務局の方から説明をお願いします。

事業の経緯と計画概要(新石垣空港建設対策室 根路銘副参事)

(沖縄県) お手元の「資料2 事業の経緯と計画概要」をご覧ください。

(資料2 事業の経緯と計画概要の資料説明)

(資料6 参考資料の資料説明)

(委員長) ありがとうございます。ただいま、事業の経緯と計画概要について説明がりましたが、何か質問があればお願いします。

(委員) コウモリの調査を現在も続行しているかと思ひますが、現在の状況を伺ひできる範囲で伺ひたいと思ひます。

(事務局) 現在の状況につきまして報告させていただきます。コウモリの調査については平成12年12月12日から16日までA洞窟で行動調査を実施しました。調査結果は解析中ではありますが、わかったこととしてはA洞窟に3種のコウモリがいることを確認しました。調査は熱映像カメラ、赤外線カメラ、バットディテクターを用ひて、夕方5時頃から明朝の7時まで行ひました。

A洞窟のコウモリは夕方から1時間程度でほとんど洞窟から出ます。洞窟を出た後は、西側の水岳の方向にほとんどが移動します。東側にも多少移動しています。カラ岳の方向と南側の農地の方向での飛翔の確認はされませんでした。

それから、石垣島全体の分布調査を行ひています。現在も継続中です。12月12日に開始して、22日までの結果では、調査した洞窟数は35で、このうち旧日本軍が作った防空壕が15あります。自然洞窟が20です。まだ未確認の洞窟が10箇所程度ありますので、調査を続けていきたいと思ひます。

コウモリが確認された洞窟は自然洞が5箇所、人工洞が8箇所の合計13箇所です。個体は確認されませんでした。グアノ(コウモリの糞)が見られ生息の痕跡があるという洞窟が13箇所、全体で35箇所の洞窟のうち、26箇所でコウモリの生息または生息痕の確認ができています。

個体数については、A洞窟では3種の合計が約350個体です。現在までの調査で多く確認されたのは平喜名付近の人工洞で、リュウキュウユビナガコウモリが約400個体以上生息していました。

(事業者) 少し補足します。ただいまの報告は今月の中旬頃から石垣島の分布調査とA洞窟の行動調査ということで調査に入っています。これは予備的な調査ということですが、結果については次回の環境検討委員会で報告し、ご検討お願いしたいと考えておりますので、ご理解をお願いします。

(委員長) コウモリのことについては今後も問題が出てくると思います。

環境影響評価法の概要

(委員長) 次に環境影響評価法の概要について説明をお願いします。

(事務局) 環境影響評価法の概要について資料3で説明させていただきます。

(資料3 環境影響評価法の概要の資料説明)

(委員長) 何か質問があればお願いします。

今回は説明にありましたとおり方法書について審議をする事になると思います。

8. 議事

委員会の運営方法について

(委員長) 「8. 議事」に入っていきたいと思います。会議の運営方法については、会議の公開の問題、会議の開催地について及び委員以外の関係者の出席について事務局から説明をしてもらいたいと思います。

ア 委員会の公開について

(事業者) 1点目の委員会の公開について説明させていただきます。新石垣空港問題は、様々な経緯があって大変注目を集めているので、原則公開にしていきたいと思えます。また、これまでの位置選定委員会や地元調整会議も原則公開としてきましたので、今回の委員会も公開にしたいと考えております。

(委員長) 事務局から話がありましたとおり、会議の透明性を図るために会議は原則として公開にした方がいいとのことですが、この件について何かありますでしょうか。公開でよいでしょうか。

(異議なしの声あり)

(委員長) 異議なしと認めさせていただきます。

イ 会議の開催地について

(委員長) 次に、会議の開催地についてであります。事務局から説明を願います。

(事業者) 今回は、第1回の委員会であり、現地視察もあることから、石垣市での開催になりましたが、次回からは、委員の皆さんのご都合もあって、お忙しい方もおられるので、基本的には那覇市で開催し、必要に応じて石垣市で開催するという形

にしたいと考えております。

(委員長) 開催地につきましては、委員の皆さんも多忙であることを考慮して、基本的には那覇市で開催したいとのことです。いかがでしょうか。

(異議なしの声あり)

(委員長) 異議なしと認めさせていただきます。

ウ 委員以外の関係者の出席について

(委員長) 次に、委員以外の関係者の出席について検討願いたいと思います。先ほど説明がありましたが、コウモリ類のことがありますので、委員以外の関係者の出席を求めることについてです。環境検討委員会設置要綱の第3条第2項で、「委員会 は、必要があると認めるときは、委員以外の関係者の出席を求め、意見を聞くことができる。」と定められております。

今回、コウモリが確認されております。この保全策が委員会の課題になると思います。陸上動物については太田先生が出席されておりますが、コウモリについてはその専門の方がいるわけで、これについては太田委員と私の方でアドバイザーについてどの方にするかを検討させていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

(異議なしの声あり)

(委員長) では、この件につきましてはそのようにさせていただくことにします。

環境検討委員会の検討スケジュール

(委員長) 次に「環境検討委員会の検討スケジュール」について説明をお願いします。

(事務局) 検討委員会のスケジュール案として説明をさせていただきます。お手元の「資料4 環境検討委員会のスケジュール」をご覧ください。また、資料3の4頁も同時にご確認ください。

(資料4 環境検討委員会のスケジュールの資料説明)

(委員長) 何か質問があればお願いします。

(委員) 新しいアセス法についてはまだ十分理解していないので説明していただきたい。これまでの閣議アセスと違って、生態系について重視しているように感じますが、生態系を予測評価する場合、保全目標あるいは指標となるものをどうおくのかについて説明をお願いします。

(事務局) 大変難しい問題であります。環境影響評価法の中で自然環境、あるいは生態系という言葉が入ってきて、閣議アセスとは変わってきています。環境庁でもこの方法について、上位種、典型種、特殊種という形で生態系の構造をみて、保全あるいは評価を考えることとなっています。ただ、具体的な方法がないのも現状かと思えます。いままでの従来型の環境基準のようなもので基準を超えているかを見るのではなく、現場での生態系、あるいはどういう生物がどれぐらいいるか、どういう構成になっているかをきちんと捉えて、それが事業との関わりの中でど

のような変化をするかを、どのような環境とどういうつき合いをしているのかをひとつひとつ丹念に整理していくことが現在の最良の方法ではないかと考えております。

(委員) 従来であれば、レッドデータブックに基づいた貴重種などの貴重な生物をリストアップして、それがどうなるかということになっていましたが、今度はトータル・エコとしての評価となると、新石垣空港の場合、陸域から海域に至るまで、指標を何に置くかが重要になってくると思うのですが。

(事務局) 環境庁のいう上位、典型という言葉の中で、注目すべき種は何になるかということになるかと思えます。これからの調査の中で検討していきたいと思えます。

(委員) スケジュールでは調査が2月と、第2回の検討委員会を得る前に始まるようですが、我々が調査項目を議論する場所はないのでしょうか。

(事務局) 方法書の中でどういう項目を調査していくかについては議論していただければと思います。基本的な四季の調査については黒丸のついている秋からの調査で行いたいと思えます。ただし、自然環境、生態系等は1年間で大丈夫かということがありますので、冬の調査から事前の調査ということで線を引いています。

(委員) 事前調査については、我々の議論は含まれないということでしょうか。

(事務局) 調査については事後になるかもしれませんが、報告させていただきたいと思えます。

(委員) できれば、予算の無駄も省けますので、基本的な項目については専門家がいますので議論を経た方が効果的かとおもいます。皆さんどうでしょうか。

(委員) 今のご意見に賛成です。先ほどもありましたように、全体をみて、影響を評価していくことになると思えますので、幅広く見ようとしたときに、どういう範囲で、どういう項目に焦点をあてて、総合的にバランスの取れた形で評価していきますので、対象項目の充実ということが重要かと思えます。そのためには、それぞれの分野の委員で、どういう項目を検討していくか、特に、どういうことを細かく検討していくかについて、相談があった方が今後の議論の進め方に役立つのではないかと思えます。

(事務局) 委員会については、第2回を3月にしていますが、その間、各委員には個別にヒアリングさせていただきたいと考えています。委員会は皆さんにお集まりいただいてご議論いただく場と考えております。

(委員長) この問題は、県の方でも環境影響評価法に基づく評価指針を作成中で、生態系が重視されてきたということで、貴重種だけではなく、トータルにそのものを見直すべきであるという意見が大半であった。今後、環境影響評価については、その場所の地域性を生かしたものになるということだと思えます。今後、事務局の方でも各委員と調整して進めていってください。

(委員) 洞窟調査で話題がコウモリにいますが、他の生物で同定されきれていないものもあります。この中には初めて見つかったものも含まれている可能性もあると思えます。このようなものが見過ごされていくのはよくないと思えます。未同定で残っているものについてはそれぞれの生物の専門家にあたれば、最終的な同定まで努力してもらえんことを確認していただきたいと思えます。

(事務局) この調査については生物調査が目的ではなかったもので、とりあえず同定できる

ものを整理しています。今後調査するにあたっては、種のレベルまで同定します。その際、専門の先生にもご指導を仰ぐことを考えています。

(先生) スケジュールで、国民に対して意見を聞く、ここで3回目の委員会がありますが、国民の意見に対してこの委員会で答えるということでしょうか。

(事務局) 意見に対して、どのように対処していくのか、取り入れるのか、入れないのか、よりよい方法にしていくのかなどについて議論いただければと思います。

現地視察(行程説明)

(委員長) 現地視察について事務局から説明をお願いします。

(事務局) 「資料5 現地視察の行程」をご覧ください。

(資料5 現地視察の行程の資料説明)

(委員長) それでは午前中の会は終了させていただきたいと思います。

(事務局) 現地視察にあたって作業着と長靴を用意してあります。委員の方には1階の会議室に着替えと昼食を準備しております。昼食後、12時10分に現地視察に出発したいと思います。12時5分までにロビーにお集まりください。

(委員長) 視察後にご意見があると思いますので少し時間をとってあります。では、午前中の会議を終了いたします。ありがとうございます。

現地視察(陸域、12:10~15:30)

現地視察(海域、15:30~18:00)

(18:00~18:33) 現地踏査の質疑

(委員長) 午後から長時間にわたって陸域そして海域とご苦労様でした。委員の方々が感じたことがございましたら、事務局のほうに意見を述べていただきたいと思います。急にというわけにはいきませんので、感じたことを整理して事務局のほうへということで了解していただきたいと思います。

私が感じたこととしては、コウモリという貴重な種類がいるということが、今回陸域で一番重要なポイントになるかと思っています。それにしても、土地の改良がなされ、ゴルフ場ができ、そういったなかでかなり改変されているにもかかわらず、洞窟の中にコウモリがいるということを含めて環境問題を生態系としてどうとらえるか、そういった高い観点から委員会としてはまとめなければいけないのかなと感じています。

それから、海域においては問題になっているのは、農業のために土地改良を行ってきたわけですが、それに伴う赤土の問題というのは、八重山だけでなく沖縄全体において問題になっているわけです。そういったことを陸域のほうでどのように対処するのかという、具体策がとられないままきいているがために、赤土の問題というのは慢性的な状態で、なかばあきらめているような感じがしてならない

わけです。そう言った意味で、これ以上空港建設に伴って赤土の問題が海域に負荷されないように本当に真剣に取り組まなければいけないと痛切に感じております。おそらく、委員の方々も痛切に感じていることだと思います。以上、私の現地を見てまわって痛感していることでございます。最後になりますが、その他のことについてなにかございましたら、委員の方々で特にこの件を強調したいというものがありましたら、2、3述べていただきたいと思います。

(委員) 今日現地を見学して感じたことなんですけど、新しく空港ができると、地下水に何らかの影響を与えることが考えられます。石垣島と同じような石灰岩地域における地下水位と雨量との関係について調べてみますと、宮古島では、地下水位と累積雨量との間に、耕作地域では80日間累積雨量と高い相関があり、一方、植生のある地域では180日間累積雨量と高い相関があることがわかっています。そうすると、雨が降って地下水位に影響が現われるのには、森林があるようなところだと180日後ということなんです。このようなケースでは、地下水に影響が現われるのに180日間位かかることが予想できるわけですから、注意が必要です。だから、工事の対象になる周辺地域と、その対象からはずれた地域における地下水位の変動がどのような関係にあるかということ、工事が始まる以前からちゃんと調べておいて、地下水位の変動の中で、その原因が工事による影響であると判断されないような工法なり施工計画を選択していただきたいと思います。だから、事前に地下水位等の変動がモニターできるような調査方法が必要です。

(委員) 今日、陸生の動物を見る側から印象に残ったのが、カラ岳の近くにあったカンムリワシの営巣があるのではないかとカクタ山と水岳です。カンムリワシということで少し名前があがったのですが、植生を見ているとそれ以外のものもいろいろといそうなところでして、直接空港の建設予定地にはかぶってないんですけど、空港ができることによってかなり影響を受けそうな位置にあります。もちろんカンムリワシというのは象徴的に非常に大事なものだとは思いますが、同時に調査をするにあたっては、於茂登、バンナ、ヤシ林の山塊よりも南では、ほとんど動物がいなくなりつつありますので、そういう視点からも詳しく調査していただければと強く感じました。

(委員) 先程も事務局の方に申し上げましたが、動かす土と場所、カラ岳を一部削るといっても現場で説明を受けて初めて知ったんですけど、イメージと実際にいじくるところをはっきりわかるようにやっていただきたいと思いますということと、地下水の調査がありますから、それと一緒に流域と当然やっていただければと思いますけど流域とその流れる方向、影響を受けそうな流域、土を動かすところを中心にして手を加えるところの情報も入れていおいていただいて、討議に加えさせていただきたいと思います。

(委員) 2点ほど感想を述べたいと思います。1つは、赤土の影響が非常に顕著だなと感じましたので、今後工事をする上でどれくらい工事の前と後で影響があるのかわからないのか、それがはっきりわかるようなかたちで、目で見ていると印象として汚れているとか汚れていないとか区別はつくんですけど、それがあつて程度客観的にわかるようなデータが出るような調査があるといいなと思いました。これが1点です。ですから、基準となるような数値の上でできるようなものですね。もうひと

つは、計画全体のデータが今まで過去の継続でいろんな空港の位置とかありますので、今出発点にあたってこれから決まっているような資料が出てくるといいなと思いました。

(委員) 洞窟の調査の際ですね、洞窟性の昆虫、特に八重山固有種や琉球固有種の昆虫がいると思いますので、その辺もあわせて調査を計画されるよう希望したいと思います。

(委員) 先ほどの話しに関連するのですが、やはりサンゴについては赤土問題と2年前の白化の問題が大きなイベントとしてあったと思いますし、この海域は比較的よく調べられているところだと思います。WWFJさんもやっていますし。そういう既存資料、未公開のものもたくさんあると思うので、そういうものを集めて、ただ集めるのではなくある程度分析したかたちで、例えば赤土が流れた時にどう変化したというものがわかればそういう分析をする、白化の後と前でどうなったかというのがわかるということで、海域についてはある程度歴史も押さえた上でそれから今どうなっていてこれからどうなるというようにぜひやっていただきたいと思いました。

(委員) 今日初めてカラ岳が削られるということを私は聞いたのですが、縦断面横断面を見せていただいて大体この程度かなと私は土木の仕事をしていますので大体イメージでわかります。ところが、一般の方はあの図面見せられてもなかなかわからないと思いますので、立体的にCGを用いて、この山はこうなりますというのをもう少し公にすることが必要であると思います。それから、騒音の問題が多分出てくるとは思いますけど、部落だけではなく畑の利用という、飛行場の近くで畑を営んでいく方々が大勢いらっしゃるわけですけど、そういう方たちの心理的な問題のケアの話も詰めていければと願う次第です。カラ岳のあれだけのものを見てきて、心の問題としてとらえることも必要だと思いますので、ぜひ、コウモリも大事、サンゴも大事ですけども、地域の方々の心の問題を大事にこれから取り扱っていただければと思います。

(委員) 私は陸上植物をやっている者ですが、そちらのほうからちょっとコメントさせていただきます。陸上植物については直接的に滑走路ができ、エプロンができ、土地が削られてダメになる、直接的な影響を受ける部分が大いわけですね。それから、今日のお話ですとカラ岳の一部を削り、カラ岳だけではなく周辺も削る部分もかなりあるとお話でしたので、直接影響を受けるところがかなり多いわけですね。それはやむを得ない部分もあると思うのですが、そのように空港が建設されて、削られて将来にわたってなくなってしまうわけですが、そういうものを今現在どういう状況になっているのかという、現在の姿をできる限り完全というわけにはいかないでしょうが、できうる限り完全に近い形で記録に残してほしい。単に環境影響評価という観点だけではなくて、今、石垣の自然はどうなっているのかという観点ですね、空港が建設された地域にどういう状況で自然があるのか。畑ですとかゴルフ場になっている部分が多いわけですけど、そういうところにも植物は生えていますし、それと共に動物や生物が生活しているわけですから、そういう姿がどういうふうになっているのかということ、より完全な形で残していただきたいと願うしたいと思います。

(委員) 今日、直接コウモリの洞窟を見てきたわけですが、残念ながらコウモリについての専門家がひとりも加わっていなかったということが、とても残念でした。コウモリの本調査はこれからだということですので、それを保護する形でですね、例えば、ターミナルの移動とか、そういったことなども含めて保護には万全を期してもらいたいというのが1つです。それから、やはり赤土問題です。今日、非常に印象に残ったわけです。これは、常日頃感じていることでしたけれども、これまではある地点、例えば、白保の船着場からちょっと沖に出てサンゴを見るということでしたけれども、今日はツールグチからずっと時間をかけて南下してきました。そうすると、その移動につれて非常に赤土の影響といいますか、それがいかに大きいかということをお知らせされたわけです。ダイバーが海底をたたいているわけですよ。ワッと濁って全く見えないような、視界が閉ざされるような状態を見て、非常に大変なことだと思いました。それで、はたして24、5p pmに排水を抑えることができるのかどうか、化学的にはできるというふうに何度もうかがっていますけれども、これは机上のことであって、これだけ膨大な工事をしてですね、はたしてこれで抑えられるのかどうか、これが1つの疑問ですね。それと、今日潜って海底をたたいて湧いた濁りというのは、実は空港の工事の排水ではなくて、農地からの排水なんですね。ですから、それも併せて考えないと、赤土問題がサンゴに与える影響というのは解決できないということをお身に感じてくれたわけです。ですから、そこをよよく認識なさって、もちろん認識なさっているのしょうけれど、重ね重ねそのことには心を置いてかかってもらいたい。したがって、工法検討とかそういったものに関しても本当に真剣に考えてもらいたいと、切実に感じました。

(委員) 今日、白保に上陸してからですね、地元の方からの、委員の皆様へのお願いがありました。あの訴えを、ぜひ皆さん、心にとめておいてください。よろしくお祈りします。

(委員長) まとめとしては、先程言ったように、陸域の生態系をどういうふうに保全するか、真剣に取りかからなければいけない、それから赤土の問題、この2点が大きく取り上げられたと思います。そういったことで、今後の方法書についても、十分にそういった面をとり入れていただくよう、ひとつよろしくお祈りしたいと思います。それでは、事務局のほうからなにかお伝えすることがございますでしょうか。

(事業者) ただいまの、各委員の先生方のご指摘の件につきましては、これから十分な調査をしていくわけですが、そういったご指摘を十分踏まえた上でですね、これからまた方法書の作成にも、そういったご意見が反映されるようなかたちで調査を行っていきたくて考えています。また、個別に事前に、先程もありましたけれども、地下水の問題につきましては、早い時期に調査に入れるようなかたちにしていきたいと考えています。先生方からいろいろご指摘ありましたので、個別に相談しながらやっていくことになろうかと思っておりますので、ひとつよろしくそういうことでご理解いただきたいということでございます。

(委員長) 1点だけですね、洞窟の中のコウモリの写真の件でいろいろと話が出てきたのですが、新聞記者や報道機関としては中が見たいという要望が出てくるか

と思います。情報の一元化というのですか、こないだは琉球新報でしたかタイムスでしたか、どちらの新聞がちょっと忘れましたが、どこかに今日使用した資料がおそらく報道されていますよね。そういったことで、片一方だけにということだけではなくて、どの新聞社にも同じように提供するように、考えていただきたい。そういった情報を、できるだけ一元化して提供するというで、ひとつお願いしたいと思います。これは、どこの新聞社にしても一般の方でもそういったところがどういったところかということ、おそらく許可なくといったらおかしいのですが、お話を聞くところによるとやはりコウモリの類は神経質だそうですので、そういったことで十分留意していただくように、報道機関にもそういったことを伝えていただきたいと考えています。ひとつまた、よろしく願いいたします。それから、先程、白保の自然を守る会からの要望書もありますので、それをできるだけそういったことをとり入れるように検討していただくというのも、必要かと思えます。それと、もうひとつは、FAXが入ってきておりましたが、日本自然保護協会から県知事宛に、特に予定地のコウモリの生息の環境保全に関する意見書が出ております。最後の方の2ページになりますが、確認された3つの洞窟を中心とする調査を十分にやっていただきたい。それと、コウモリの専門家をぜひ検討していただきたい、といった要望が出ておりますので、そういった要望をご検討いただきたいと思えます。調査結果及び検討については必要にある場合は空港建設計画そのものを大胆に、これは後になるかと思えます。特に1点目の件については、十分配慮していただきたいと思えます。

(事業者) 　　ただいま、委員長から日本自然保護協会理事長から沖縄県知事宛に、正式に昨日郵送されたということで、室にはFAXで届いてきたのを紹介したのですが、その他コウモリの会会長山本照正氏、そういった方々からもいろいろと来ておりますので、次回3月に第2回検討委員会で方法書案を審議するまでには、いろいろな要望書、意見書等も出てくると思えますので、その辺はまとめて整理してですね、またそういったかたちで審議するなかで紹介しながら、委員の皆様意見を聴きたいと考えておりますので、よろしく願いします。それと、今、委員長からもあったのですが、崎山委員のコウモリの専門家がいなくて残念との話があったのですがけれども、先程、陸上動物の専門の太田委員と香村委員長にお任せするというで決めていただいておりますので、その辺は太田委員と我々事務局のほうで調整しながら、次回の3月の第2回では、アドバイザーとしてコウモリの専門を一緒に入ってもらって審議していただく予定になっておりますので、よろしく願いします。

(委員長) 　　何か、その他に伝えたいことがございますでしょうか。

(委員) 　　この表を見ますとですね、3月中に第2回の委員会を開く、それから公告・縦覧までの幅が時間が短いですね。その間に、いったい何をすればいいのかというのが、今、大変心配なんです。というのは、資料の中にどれだけの引用文献があるかという一覧表がありますけれど、おそらくそこで提出される資料は膨大なものになりますよね。それを我々が吟味する時間がどこに設けられているのかということ、心配しております。第2回目の委員会から第3回目の委員会にかけての具体的な動き、時間的な予定ですね、それをちょっと具体的に教えていただけ

ませんでしょうか。

(事務局) 方法書の作成の予定は資料4のスケジュールでお示したように、年度の中で方法書を作成していきたい。それにあわせて委員会ということですが、もちろん膨大な資料になると思います。ご指摘のとおりだと思います。したがって、現在すでに作業はしておりますので、今日お示した目次案、あるいは使います具体的な資料、そういったもので早急にとりまとめを行いまして、それぞれご専門の先生方含めまして、事務局のほうから年内というわけにはいきませんが、年明けくらいから個別にヒアリング等させていただければと思います。もちろん、ご専門のところだけということではなくて、全体的な像も見ていただきまして、現況把握の内容、あるいは現況に立脚してどのような調査項目にしているのか、そういったところのご指摘をいただければと思っております。

(委員) できあがった方法書を我々が拝見してですね、さらに我々の意見をさらに加味したものに修正するということですか。

(事務局) そういう内容で修正したものを、可能な限り修正したものをですね、第2回の委員会の予定の中でお諮りしていくと、そうでないと、それこそ、委員会をしていただいて、修正がたくさんあって間に合わないというような話になりますので、それまでに具体的に個別にですが詰めさせていただければと思っております。

(委員長) この件については、確かにあと1回ですか、3月の検討委員会でまとめて公告、縦覧というかたちをとるわけですね。そういったことで、あと1、2月の間にそちらのほうで、できる限り委員会の方とも調整しながら、各専門のところを中心にでも、はやめにやっていただくことを、ひとつ要望しておきたいと思います。そして、第2回目は、おそらく全体的な流れがどうなっているかということが重要なことになろうかと思っておりますので、ひとつそういった方法でようございませうでしょうか。最後にしたいと思いますが、何かございませうでしょうか。それでは、以上をもちまして、第1回目の検討委員会を終了させていただきます。どうも長い間、ご苦労様でした。どうもありがとうございました。

閉会 18:30